

# 大学図書館の未来

植松 貞夫

筑波大学附属図書館長, 同大学院図書館情報メディア研究科・教授

はじめに

大学図書館の設置目的と役割は、教職員と学生が必要とする資料と情報を効果的、効率的に提供することを通して、その大学の教育、研究を支援することにある。その意味で大学図書館は大学の中心的な構成要素の一つであり、大学の象徴されることがある。これに加えて近年、大学の開放すなわち成人教育や地域社会、産業界への貢献などという社会的役割が強調されるに伴って、大学図書館にも第3の役割としてこの面での貢献が求められている。具体的には、一般市民の来館利用を受け入れることであつたり、大学の教育・研究上の成果を発信する窓口となる機関リポジトリなどの活動である。

さて、教育と研究支援機能のうち、研究支援にかかわるサービスは、学術情報流通のデジタル化の進展によって、電子ジャーナル等電子的情報資源へのアクセス環境の提供に主体が移行し、「非来館型サービス」と呼ばれる利用者の来館を要しないサービスとなってきている。その結果、大学図書館のサービスは、教育支援とりわけ、学部段階の学生の利用を促し、来館した学生が快適かつ効率的に利用行動が展開できる資料・環境・設備を提供することを目的にすべきといえる。それは適正な建築、豊富な資料群、職員の適切な誘導と支援によって、インターネットへの過度な依存を排し、印刷資料からの学習、情報取得を促す図書館である。

1. 電子図書館機能の現状と課題
    - ・電子ジャーナル等電子的情報資源の整備
    - ・機関リポジトリの構築・充実
  2. 職員の現状と課題
    - ・定員の恒常的な削減、高齢化、他部局との交流
    - ・資質の向上と研修
    - ・業務委託
  3. 利用者の利用行動
    - ・インターネットへの過度の依存
  4. 図書館の建築
    - ・老朽化・狭隘化、耐震補強工事
  5. 大学図書館の経営
    - ・館長、幹部職員の経営能力、マネジメント、評価
  6. さて、未来は
-

## 【講演者プロフィール】

植松貞夫（うえまつ さだお）

1974年 東京大学大学院工学系研究科 建築学専攻修士課程修了  
1974年 筑波大学施設計画室  
1980年 図書館情報大学助手，助教授，教授を経て  
1999年 図書館情報大学副学長・附属図書館長  
2002年 筑波大学図書館情報専門学群長  
2004年～現在 現職

### 主な著書

建築設計資料集成（教育・図書） 共著，日本建築学会編，丸善  
建築から図書館をみる 単著，勉誠出版  
図書館情報学ハンドブック第2版，共著，丸善  
図書館ハンドブック第6版，共著，日本図書館協会

### 学位

工学博士（東京大学）

### 学会

日本建築学会  
人間・環境学会  
日本図書館情報学会  
情報メディア学会

### 社会的活動

国立大学図書館協会学術情報委員会・委員長，人材委員会委員  
日本図書館協会施設委員会委員長  
田嶋祈念大学図書館振興財団 評議員

---